

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：八幡市

プロジェクト名	お茶の京都・八幡推進プロジェクト ～「文化力」・「観光力」発信～	実施期間	平成28年度～ 平成29年度	テーマ	地方創生	新規・継続の区分	継続
地域における現状、課題及び住民ニーズ	山城地域は、日本茶のふるさととして、その歴史と独特の風土が織りなす美しい茶畑景観や、地域に根ざしたお茶の文化が形成され、日本のお茶の文化や産業をリードしてきたが、消費の減少や生産者の高齢化など、お茶の文化や産業の衰退にもつながる課題が顕在化してきており、これまで育まれてきた日本遺産、京都府景観資産である流れ橋周辺に広がる浜茶の景観や松花堂昭乗や松花堂弁当に代表される茶事の文化を将来に渡り、維持、継承、発展させていくためには、地域の力や魅力を引き出す新たな対策が必要である。						
プロジェクトの目的及び概要	・やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」を核に、石清水八幡宮から松花堂・円福寺を結ぶ東高野街道沿いを戦略的な交流拠点として整備する。 ・やわた流れ橋交流プラザ「四季彩館」は、木津川流れ橋を含め河川敷に広がる茶畑景観のビューポイントで、年間10万人の来場者がある。さらに、石清水八幡宮から南へ延びる東高野街道沿いには、お茶に関わる施設を含め、歴史的な観光資源が点在する。これらを活かし、地域の活性化を図る。						
	総事業費（千円）	49,946	本年度事業費（千円）	39,102	交付金額（千円）	11,394	
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績(出来高数値等)							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要		主な実績（出来高数値等）		
市町村 実施事業	「お茶の京都」戦略的交流拠点強化、文化力発信・向上事業	交付対象事業	「お茶の京都」マスタープランで戦略的な交流拠点となっている松花堂及び流れ橋交流プラザの強化等を実施。八幡市に縁のある徒然草や佐藤康光等の文化人に焦点を当て、八幡市の文化をPRするとともに市民の文化力の向上を図る。		やわた流れ橋交流プラザ利用者数 106,649人 松花堂庭園・美術館利用者数 34,343人		
	おもてなしの第一歩！駅前広場美化整備	交付対象事業	八幡への玄関である駅前周辺の管理を充実することで、魅力的なまちづくりを行う。		八幡市駅前広場及び橋本駅ロータリー内環境美化整備		
	誰もが気軽に来れるまち！観光案内用道路標識整備	関連事業	石清水八幡宮へ車で来れるよう、道路案内標識を整備		観光案内版設置 7か所		
住民 協働 事業	八幡の魅力を世界へ発信！事業	交付対象事業	友好都市であるマイラン村・宝鷄市に八幡の魅力を発信する。また、市の沿革について広報するため、市勢要覧を作成する。 NHK公開収録を行い、八幡の魅力を全国に発信する。		友好都市マイラン村スカイプ交流 参加者 約80人 市勢要覧の作成 2,000部 NHK公開収録		
	徒然草文学賞表彰費（補助分）	関連事業	全国から徒然草にちなんだ随筆文を募集し、優れた作品に「徒然草エッセイ大賞」を授与		応募数 2,581件		
住民が 取り組む 事業							

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：八幡市

成果指標①	成果指標の目標数値	やわた流れ橋交流プラザ利用者数 110,000人		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	106,649人	
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標数値の110,000人に届かなかったが、近年の中では利用者数が増えている。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成果指標②	成果指標の目標数値	松花堂庭園・美術館利用者数 39,000人		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	34,343人	
	成果指標の達成状況	△	(左の理由)	目標数値の39,000人に届かなかったが、近年の中では利用者数が増えている。		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
成果指標③	成果指標の目標数値	観光案内版設置 7か所		成果指標の実績値 (30年4月1日時点)	7か所	
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標と同数値を達成したため		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)	
本年度の事業実績が 成果指標の達成に与えた効果	「お茶の京都」マスタープランで戦略的な交流拠点となっている松花堂及び流れ橋交流プラザの強化等を実施することで、住民が誇れる魅力的な施設に寄与した。友好都市であるマイラン村・宝鷄市との交流を図ることで、八幡の魅力を世界へ発信できた。					
※未達成の場合も効果を を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。					
本プロジェクトに 対する自己評価	関連事業との連携効果	徒然草にちなんだ随筆文を全国から募集することにより、新聞やチラシへの掲載を通じて、全国へ八幡のまちの周知・PRにつながった。				
	府と市町村等との連携に資する成果	「宇治茶」をテーマにお茶生産の景観やお茶文化の発信をするにあたって、府や関係市町村と連携できた。				
	住民の自治意識を高める成果					
	リーディング・モデル成果					
	広域的波及成果	友好都市であるマイラン村・宝鷄市との交流により、八幡のまちの魅力を世界へ発信できた。				
	行財政改革に資する成果					

みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成２９年度分）

団体名：八幡市

	その他の成果	
--	--------	--

（記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは―を記載すること。